

## 岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

### ②事業者情報

名 称：社会福祉法人 岐阜県福祉事業団 岐阜県立はなの木苑	種別：障がい者支援施設
代表者氏名：白村 永子	定員：施設入所支援 70名 生活介護 90名
所在地：土岐市泉町久尻1512-2	Tel 0572-54-3521

### ③総 評

#### ◇特に評価の高い点

施設は、緑豊かな自然に囲まれた丘陵地に位置し、すぐ横に高速道路のインターチェンジがあり、また正門前には一般道のバス停がある等アクセスの条件も良い。敷地内は牧歌的な光景が広がり、玄関先には事業所の名称でもある「はなの木」が利用者を暖かく見守るように植栽されている。

二度目の訪問である今回も、利用者の方々に明るい笑顔で迎えていただいた。前回の訪問から現在までに、支援費制度から自立支援法を経て総合支援法へとめまぐるしい制度変遷を辿ったが、利用者の方々の日常の様子に当時と変わらぬ穏やかな暮らしぶりが見て取れた。一方で、歳月とともに利用者の高齢化と重度化は確実に進行しているのも事実であり、利用者支援の内容もニーズに合わせて変化してきており、対応策の強化が今後の課題と考える。

当施設は、地域の拠点施設として、グループホーム織部、東濃圏域発達支援センター、指定相談支援事業所を相次いで開設し、地域のニーズの把握に努め、居宅介護、日中一時支援、短期入所等の事業実施を通じてニーズに応えるとともに地域連携の強化に向け、取り組んでいる。とりわけ、重度の行動障がいを抱える方の受け入れに力を入れている。その受け入れ体験が職員のプロとしての自覚を促し、自信の獲得につながっているようである。

施設の建物は採光に優れ、施設全体が明るい日差しに満ちている。全室個室であり、利用者のプライバシーが確保されていること等、平成13年の改修当時の設計思想に進取の精神が伺えたが、今でも十分に色あせていない印象を受けた。

訪問時、作業見学の際や食事の際、また利用者との面談を行う中で、職員と利用者の信頼関係ができていと感じ取れた。利用者の思い思いの日常の様子(陶芸に取り組む人、縫い物を楽しげに行う人、いきいきと食堂への送迎をしてくれた人等)や、利用者の目線に立った分かりやすく工夫された掲示物等を眺めながら、利用者一人ひとりの特性を理解し、それぞれの能力を活か

そうとする支援に取り組む職員の姿勢が信頼関係をより強いものになっていると思われた。

ヒアリングの作業では、自己評価結果に対し、管理層職員が首をかしげる所が数か所あったが、管理層職員と現場職員の見解の相違がある場合、現場職員の評価が会議で反映され、常に利用者と向き合って支援に臨んでいる現場職員の意見を大切にしていることが伺えた。

#### ◇改善を求められる点

利用者や家族の高齢化が進行する中で、ますます介護分野や成年後見利用支援等の情報・知識・技術・環境整備等が必要となると考えるので、今後とも対応に向けた取り組みに期待したい。

#### ④第三者評価結果に対する事業者のコメント

全体的に高い評価をいただいたことは、支援の取り組みの結果として職員に開示し、更なるモチベーションアップに繋がりたいと思います。

当苑は全室個室である事からユニットでの活動を通じ、「個別支援」の流れは定着してきました。そこからさらに「利用者の“私スペシャル”メニュー」を工夫して貰っています。そのような流れで墓参メニューも生まれましたが、普段見られない反応を見る事により、それが支援者のモチベーションアップに繋がっているようです。

一方当苑の現状として、障がい程度の重い自閉症者も多く、専門的な対応がなされないと行動障がいを強化してしまう事案を多く抱えています。他方で機能低下が著しく身体介護のスキルを必要とする利用者も年々増加しています。職員に求められるスキルの質と幅が広がっており職員のメンタルでのサポートも不可欠だと感じています。虐待防止に向けた一番の取り組みは、利用者視点での支援であり、ケース検討をチームとして取り組み、改善された事が次への意欲に繋がるため、研修も具体的な利用者支援の問題をワーカー、看護師、管理栄養士が連携して支援に当たれるよう体制作りを図り、研修担当と連携して進めるようにしています。

福祉を取り巻く環境変化が早い昨今、制度理解や成年後見制度など利用者の利益に繋がる知識についても、周知していく必要性を感じています。

#### ⑤評価細目の第三者評価結果 (別添)